

令和3年度 第1回鴨川市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年10月21日(木) 開会 午前10時00分
閉会 午後 1時00分

2 場 所 西条小学校 3階 図書室

3 出席者 (1) 長谷川孝夫 市長 (2) 鈴木 希彦 教育長
(3) 石井 千枝 教育委員 (4) 根本新太郎 教育委員
(5) 吉原 里夏 教育委員 (6) 永島 康弘 教育委員
*事務局員
(7) 三浦 徹 学校教育課長 (8) 加藤 貴之 学校教育課指導主事
(9) 犬石 貴久 学校教育課管理指導係長
*西条小学校職員
(10) 岡野美智代 校長 (11) 川名 直樹 教頭

4 開会・出席者紹介（加藤学校教育課指導主事）

- 加藤学校教育課指導主事から、出席委員および関係職員の紹介及び授業参観クラスについての説明がなされた。

5 市長挨拶（長谷川市長）

改めまして皆さんおはようございます。

本日は、令和3年度第1回総合教育会議にご出席を頂き、ありがとうございます。

昨年から今年にかけてコロナウイルス感染症拡大により日本はもとより世界中が揺れ動いているところでございます。8月は全国で2万5千人を超える感染者があり、大変驚いたところでございますが、今は少し落ち着き、昨日の数字を見ますと全国で500名を切る感染者数であり、感染者数が下がる傾向にあることは大変良いことでありますが一面驚いているところでもあります。私は予断を許さないと思っており、何よりもワクチン接種が大切であると認識しているところでございます。本市におきましては、18日現在で第2回のワクチン接種を終わった方は80%近くであり、1回目を終わった方は90%近くになっております。希望する方々の90%近くがワクチン接種が終わったということで、これが大きな力となって下方傾向にあると思っているところでございます。1日も早く収束し、元通りの生活ができるよう祈っているところでございます。学校におかれましては、小学校6年生から中学生、高校生が対象となっているところでございますが、希望する方々にはしっかり打っていただいて感染症が拡大しないように気をつけていただきたいと思います。

教育委員の皆様には、日頃、教育に関する高い識見と熱意をもって、教育行政の充実に御尽力を頂いておりますこと、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

さて、私もこの3月から市長に就任させていただいているところでございますが、私が施政方針のなかで、まず第1番は先ほど申し上げましたとおり、コロナ感染症拡大防止に向けてしっかりと対策を練っていかねばならないということを掲げさせていた

だいたところですが、加えまして重点施策の一つが、「教育文化・芸術の振興」でございます。

学校教育におきましては、これまで、子ども達の健やかな成長と豊かに生きる力を身につけさせるため、保幼小中一貫教育を推進し、地域との協働による教育活動の充実に向けた取組を進めてきたところでございます。幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、さらには大学もあるということで、一貫した学びの場を提供する中ですばらしい子どもたちに育っていただきたいというのが鴨川市の願いでございます。今年度の具体的な取組としては、今日もその実践の一端を披露していただけるということでございますが、GIGAスクール構想により導入された、一人一台タブレット・パソコン等を活用しながら、より一層の教育活動の充実に向けてまいりたいと思っております。

加えまして、教育支援センター「ステーション」を中心とした不登校等支援の充実にも努めてまいりたいと考えているところでございます。

生涯学習につきましては、公民館活動の充実・活性化を図るほか、文化・芸術の分野においては、引き続き、文化芸術団体等への支援を進めてまいりたいと考えております。

次代を担う子ども達の健やかな成長と、豊かで潤いのある暮らしの実現をめざし、教育委員会と市が力を合わせ、課題等を共有する中で、問題解決や子ども達の健やかな成長・発展につなげていければと思っておりますので、皆様には引き続きのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

せっかくの機会でございますので、少し私の思いを語らせていただきたいと思っております。一言で言いますと、学校教育が教育委員会の大きな課題となっているところでございますが、学校の役割とは何かということを変えて考えていただきたいと思っております。当然のことながら学校教育の目標、学校の役割につきましては、時代とともに変わる側面はあるものの、人が人としてどう生きるのか、これを解いていただきたい。学校教育により多くの付加価値をつけることにより、自分はもちろんのこと人を幸せにする力、これを私は生きる力と思っておりますのでございますが、この生きる力をしっかりと子どもたちにつけていただきたい。

今後、教育委員会と市長部局が顔を合わせる中で、考えを共有し、単なる総合教育会議ということでなく、実効性のある議論の場となるよう願っておりますので、今後とも教育委員の皆様方には、ご理解をいただき、子どもたちが健やかに育つように環境作りに努めてまいりますので、どうぞ、よろしく申し上げます。以上で私からの挨拶とさせていただきます。

6 校長より

- 岡野校長から、学校経営の概要及び現在の児童等の状況について、資料をもとに説明がなされた。

—— 川名教頭の案内により授業参観（10:25～11:10） ——

7 確認事項（三浦学校教育課長）

- 三浦学校教育課長から、総合教育会議の運営について、資料をもとに説明がなされた。

8 協 議 （ 進 行 : 三 浦 学 校 教 育 課 長 ）

三浦学校教育課長から、「鴨川市総合教育会議運営要綱」第3条に「会議は、市長がその議長となる。」と定められていることから、日程4の協議事項から日程5の意見交換の議長を長谷川市長にお願いする、との依頼がなされた。

(1) 鴨川市の教育に関する大綱について

- ・ 三浦学校教育課長から、「鴨川市教育に関する大綱について」資料をもとに説明がなされた。
- ・ 長谷川市長から、市の政治状況が変わろうとも教育については自治体の教育振興計画に基づいていくことが本来の目的であり、市長部局と教育委員会が課題等を共有しながら、子どもたちの成長を見守り、環境を整えていきたいという趣旨である。従って、第3期鴨川市教育振興計画がすでに定められていることから、これをもって大綱としたいということであり、私自身も第3期鴨川市教育振興計画を見させていただいたところ、しっかりとした内容で書かれているとの感想を持った。皆さんもすでに読まれていると思うが、事務局の説明及び私からの補足説明について、意見等があるか、また、これを大綱とすることによろしいか、との発言がなされた。
- ・ 根本委員から、教育振興計画のタイトル「ともに学び未来を育む教育文化のまち」について、「教育文化」という言葉がしっくりこない。次期計画策定の際は、インパクトのある言葉を考えて欲しい、との意見がなされた。
- ・ 三浦学校教育課長から、次期計画策定時の検討課題としていきたい、との説明がなされた。
- ・ 長谷川市長から、教育振興計画をもって大綱にすることによろしいか、と改めて確認がなされた。
(異議なしの発言あり)
- ・ 長谷川市長から、「鴨川市教育に関する大綱」について、第3期鴨川市教育振興計画とする、との発言がなされた。

8 意見交換 （ 進 行 : 長 谷 川 市 長 ）

長谷川市長から、意見交換のテーマは、「教育活動におけるICT機器の活用について」及び「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について」の2点とする、との発言がなされた。

(1) 教育活動におけるICT機器の活用について

- ・ 岡野校長から、本日の授業参観の補足として、「教育活動におけるICT機器の活用」について、説明がなされた。
- ・ 根本委員から、他校との交流について大変進んでいると感じた。小中一貫をもう一段階進め、市内で全学一貫の取組ができると良い。また、発表ノートは児童にアウトプットの力をつけさせるという意味で学習効果があると感じた、との意見がなされた。併せて、児童がタブレットの画面を見ている時間は週にどのくらいあるか、との質問がなされた。
- ・ 岡野校長から、学校でのタブレットの使用は、1日1時間程度、週5時間程度で

ある、との説明がなされた。

- 根本委員から、タブレットを使用する良さは数多くあると思うが、長時間使用した際のデメリット等にも留意願いたい、との意見がなされた。
- 永島委員から、児童のタイピングの能力差が大きいと感じたが、どのように対応しているのか、また、ほかに課題はあるか、との質問がなされた。
- 岡野校長から、タイピング能力には個人差があり、担任による個別の指導をしたり、家庭へ持ち帰る際にローマ字表を持たせ、家庭で練習したりしている、との説明がなされた。課題として、現在、全学年でほぼ毎日持ち帰りを行っているが、タブレットを隠れて長時間使っている例もあり、自制心がつくまでは学校で調整する必要もある、との補足説明がなされた。
- 長谷川市長から、スマートフォンを長時間使用する依存症が社会問題になっていることもあり、正しく使いこなせるための教育を学校でしていく必要がある、との意見がなされた。
- 吉原委員から、1年生が人の手を借りずプログラミングに取り組んでいることに驚いた。2年生は作成したおもちゃの説明資料を作成していた。一人で進めるのではなく、友達とコミュニケーションをとりながら学習を進めることができるのは、対面授業を行っている良さであり、個別と対面の良さが上手に取り入れられている、との意見がなされた。
- 石井委員から、教育環境が様変わりしていると改めて認識した。先ほど岡野校長の説明にもあったが、あくまでも一つの学習の方法であり、活用の仕方を間違えないようにすることが大人の責任であり、対面でなければ得られない学習の良さも大事にしていかねばならない。また、タブレットの使用に当たっては、ローマ字からの指導が必要であり、教員の負担も想定される。家庭での取組であれば、家庭の教育力が影響するとともに、保護者の苦労も大きいと考える、との意見がなされた。
- 石井委員から、6年生と3年生の担任が入れ替わっていたがその理由は何か、また、音楽室で机がなく学習を進めていたのは姿勢の面で気になる、との意見がなされた。
- 三浦学校教育課長及び岡野校長から、机を使用していない学校は多い、場面に応じて机を入れていくなどの工夫をしていきたい、との説明がなされた。
- 鈴木教育長から、9月の臨時休業時にタブレットを使用した健康観察や学習を積極的に進めたのが西条小であり、教育委員会としても心強かった。今後も授業力の向上につながる実践を広めていただきたい、との意見がなされた。
- 長谷川市長から、市内他校の状況は如何か、との質問がなされた。
- 三浦学校教育課長から、全ての学校で家庭とのオンライン学習が可能であることが確認されており、双方向での学習を実施している学校が複数あるほか、定期的な持ち帰りによるオンライン学習を実施している学校もある、との説明がなされた。
- 長谷川市長から、コロナ禍において、どう市民の生命や暮らしを守り、学校においてはどう学習を進めるのかが課題である。ピンチをチャンスに変えるとも言えるが、個別学習が成立してきたとも捉えられる。若い頃から情報機器を活用する機会は極めて重要である。先程来、課題としてあげられている依存症等の問題については、保護者、学校が地域を巻き込みながら、地域の中の学校としての役割を模索していただきたい。4年生の走り高跳びの追いかけ再生は、自分の技術を高めるため

にすばらしい授業であった。これらの取組が子どもたちの力になっていき、学力がつくことが重要であり、学校の役割である。学校でなければならない学力、すなわちそれは、人を幸せにする、個人が幸せになる、そこに結びつく授業であろう、との意見がなされた。

(2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

- ・ 犬石学校教育課係長から、学校運営協議会について、資料をもとに、9月定例教育委員会議以降の変更点について、委員の人数について、1協議会あたり10名以内、2校以上合同で行う場合は12名以内として、現在、調整を進めている。また、委員の報酬については、1名あたり日額5,000円、会議の回数を年3回を基準とする方向で見直しをしている、との説明がなされた。併せて、導入までの今後のスケジュール案について、説明がなされた。
- ・ 長谷川市長から、子どもは地域の宝であり、地域が一緒になって子どもたちを育てることが重要である、との意見がなされた。

—— 市長及び教育委員が給食を試食（12:20～13:00） ——

- 入江学校給食センター所長から、令和元年度から始まった調理・配送業務等の民間業者委託の状況等について、資料をもとに説明がなされた。
- 庄司栄養教諭から、本日の献立及び食育について、資料をもとに説明がなされた。

9 閉会

- 三浦学校教育課長が、一切の終了を告げ、閉会を宣言した。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証する。

令和 3年12月28日

鴨川市長 長谷川 孝夫

議事録作成（学校教育課長 三浦 徹）